

新機一転

日本銀行名古屋支店長
かとう たけし
加藤 毅氏



1964年6月、東京都生まれ、56歳。88年、東大法学部卒、日本銀行入行。2000年、金融市場局調査役。03年、企画室同。04年、企画局企画役などを経て10年、同政策企画課長。11年、長崎支店長などを経て14年、総務人事局審議役、16年、システム情報局長、17年企画局長を経て20年7月から現職。

当地区の現勢を見極め 生きた経済情報を集めて中央に伝える

【親しみのある地域】 当地に住むのは初めてですが、妻が春日井市出身ですので親しみのある地域です。名古屋は日本のモノづくりの中心と言われていますが、一次産業から三次産業までバランスが取れています。輸送機械以外でも、工作機械や航空機、食品関係など様々な業種があるほか、江戸時代からの企業もあるなど伝統や歴史ある企業も多いです。農業も国内生産1位の品目も結構あります。

【金融政策畑】 印象に残る業務は2つあります。1つは金融政策の企画業務です。金融政策畑が長く、2008年のリーマンショックの時から東日本大震災、そして今回の新型コロナなど、大きな変動の中で金融政策の企画・立案に携わりました。危機時の対応ということで世の中に与えたインパクトも大きかったと思います。赴任前には、コロナ禍でも、企業の資金繰りが滞らないよう、金融機関への資金供給の仕組みなどの対応策を講じました。

もう1つは銀行券供給を支える決済システムに関する業務です。現代は電子決済が当たり前

の時代ですが、実は最終的な電子決済の大元は日銀ネットというシステムです。銀行などの決済システムが日銀ネットに繋がっています。1日約250兆円を決済するシステムを日銀が運営し、改善に向けて常に見直しています。システムセンターは東京都府中市にあり、毎年初め、同市内の大國魂神社にシステムの安泰を願ってお祓いを受けに行っていました。

【抱負】 1つ目は経済の生きた情報を集めて中央に伝えることです。マクロ経済動向は統計情報をもとに判断していますが、統計は公表されるまでに時間がかかり、変化の激しい足もとの経済状況はつかめません。日本経済にとって重要なこの地区の現勢を伝えていくことは大事だと考えています。2つ目は、日銀は全国や海外に支店・事務所があるので、全国および海外の情報を収集しており、それを当地の皆さんに伝え、情報交換をすることです。3つ目は、全国の方には意外と知られていない当地の良いところや経済の強さを、他地域へも発信していくことです。